

平洲小学校のあり方検討委員会 勉強会 議事録

- 1 日時 令和8年（2026年）6月19日（金）
午後1時35分～午後3時10分
- 2 場所 平洲中学校 ミーティングルーム
- 3 出席者 鈴木賢一委員、教育長、教育部長、主任指導主事、平洲小学校代表、平洲中学校代表5名、平洲小学校保護者代表3名、平洲中学校保護者代表3名、平洲コミュニティ代表3名
- 4 欠席者 平洲小学校代表3名
- 5 内容
 - (1) あいさつ
教育長よりあいさつを行った。
 - (2) 報告事項
事務局より、平洲小学校のあり方検討委員会について報告を行った。
(報告内容は、平洲小学校のあり方検討委員会 第1回代表者会議と同様)
 - (3) 勉強会内容
 - ア 平洲小学校、平洲中学校の現況
資料に基づき、以下の内容について事務局より説明を行った。
 - ㍑ 児童生徒数及び学級数の推移
令和50年までの将来推計で、学級数には大きな変化はないものと想定している。
 - ㍑ 施設の状況
本市では鉄筋コンクリート造の耐用年数を80年としている。
平洲小学校本館は今年で築69年となり、建替え時期が迫っている。平洲中学校本館は築43年で、まだ耐用年数の半分ほどのため、基本的に残して活用の方針とする。
 - ㍑ 各校の特色
(平洲小学校) 校名に細井平洲先生の名前を戴き、正門の細井平洲像が来訪者を迎える。創立100周年記念で誕生した独自キャラクター「じんちゃん」(名前の由来は平洲先生の幼名「甚三郎」)があり、年1回の「じんちゃん

ん芸能大会」や学期ごとの「平洲かるた検定」など、平洲先生に関連した特色ある行事を実施している。

（平洲中学校）校訓は「自学・礼節・先施」で、教育方針を「自ら学び、考え、行動する生徒の育成」とし、リーダー育成と活気あふれる学校づくりを推進している。5月の体育祭、10月の文化祭・合唱祭を「平洲中祭」とし、赤青黄緑の4色縦割り活動で競い合う。台風の日、ソーラン節、黑板アート、学級合唱などを通じて「先施の心」を体験させ、自らを高める教育を実践している。

イ これまでの検討内容

資料に基づき、経緯と学校施設の将来像について株式会社日建設計より説明を行った。

ウ 近年の教育の動向、参考となる事例の紹介

資料に基づき、以下の内容について名古屋市立大学特任教授鈴木賢一委員より説明を行った。

ア 今どこにいるのか…これまでの学校

日本の学校は、時間割、学級、教室がマス目のように画一的に区切られてきた。これは「標準設計」として全国一律の教育クオリティを保ち、高度経済成長を支える原動力となったが、時に過度なストレスを生む側面もあった。

一方、海外と比較すると教室の机配置も様々で、建物だけでなく家具の設えも教育のあり方に深く関わることで、日本の学校教育が唯一の方法ではないことが分かる。

イ) どこへ向かうのか…学校づくりの課題と方向性

現在は少子高齢化が深刻で、東海市でも今後ますます高齢者の割合が増えていく。地域社会の年齢構成が大きく変わる中、学校を子供の教育のためだけの空間とするのではなく、多世代が交流する地域の拠点へと転換していく必要がある。

OECD（経済協力開発機構）の指針が示すように、今後の教育は知識の獲得にとどまらず、個人と社会の「幸せ」を目指し、学んだことをどう社会に還元するかが重視される。これは実学を重視した平洲先生の思想とも深く共通すると言えるのではないか。

環境配慮、セキュリティの強化や防災、地域に開かれたコミュニティ拠点としてのあり方、学ぶ意欲を促し、新しい学習スタイルに対応する教室のつくり方など、ハードとソフトの両面を一体的に、地域との関係性の中で計画していくことが重要である。

(ウ) どうしたらよいか…プロジェクトの進め方

今回特有の課題としては、①同一敷地における小中の連携、②新設の小学校校舎と既設の中学校校舎の関係、③現平洲小学校の敷地と合わせて2つの敷地を活かすことの3点がある。小中が同一敷地になることで考えるべきことが増えるが、これを前向きにとらえ、学校のあり方を再考する機会としたい。

小中の共存を2世帯住宅と考えたとき、何を共有し、何を専用とすべきか先進事例にも学びながら平洲小学校・中学校なりの姿を議論してほしい。

また、建物のライフサイクル上、学校を一番長く見守る主体は地域の方々であり、その人たちが参加することで、よい学校づくりができる。特に、設計の前段階であるこの1年間でどこまで方向性を見出せるかが鍵となる。従来通りではなく、これからの子供たちや地域のための学校について、知恵を出し合っていたきたい。

エ 質疑応答

(保護者代表)

この検討委員会は計画の初期段階からの開催のため、形だけのワークショップではなく、議論の内容を十分に取り入れる余地があると考えて良いか。また、学校の運営方針や、建築計画については全くの白紙というところか。

(事務局)

今のところ、運営については小中一貫とはしないこと、建物については平洲中学校敷地内への建て替え、現中学校校舎は基本的に残して活用することが決まっているが、その他は特に決まっていない。

これまでの基本計画でアンケートなどを通して聞いた意見や今回の検討委員会を通じた意見などを取り入れていく予定をしている。

(株式会社日建設計)

平洲中学校敷地内での建築計画は既に何案か検討しているが、検討委員会、分科会の議論を踏まえて、今までの検討案にとらわれず校舎の骨格を検討したいと考えている。

(保護者代表)

いつ何の議論をするか、いつまでに何を決めるかといったロードマップを提示すべきではないか。もの決めのスケジュールは具体的にあるのか。

(鈴木委員)

基本的な方針として最終目標にあることは、今年度中に決めるつもりで進めたい。また、現実的に取り入れることが可能な意見と、そうでない意見があるため、その点も共有しながら議論していきたい。

(保護者代表)

分科会での具体的な議論の進め方について説明されなかったが、特に決まっておらず手探りで進めていくということか。

(事務局)

次回（８月２５日）の保護者・地域住民分科会で提示する。

(保護者代表)

次回の分科会で議論する内容を事前に共有してもらいたい。

(事務局)

事前に共有することとする。

(4) 閉会